

 <p>開校明治七年 開校147年目</p>	<h1>宗岡小だより</h1> <p>学校教育目標 よく考える子 思いやりのある子 心も体も元気な子</p>	<p>めざす学校像 「子供達一人一人の居場所があり、輝ける学校」 「安全・安心できれいな学校」</p>	<p>11月の生活目標 友だちに思いやりをもとう ・相手の気持ちを考えよう ・友だちのよいところをみつけよう</p>
		<p>令和3年11月号 志木市立宗岡小学校 児童数450名・学級数18学級 住所 志木市中宗岡3-1-1 TEL 048-471-0307</p>	
<p>基本理念「自分がすき 友だちがすき 町がすきな 宗小の子」</p>			

## 思いやりと学力の関係

校長 石田 賢一

10月中旬までの残暑もようやく落ち着き、朝夕を中心にだんだん秋らしくなってきました。「秋の日はつるべ落とし」と言われるように、17時過ぎには暗くなってきています。特に11月は、日没から暗くなるまでの時間が年間で一番短いそうです。学校においても安全指導を行ってまいります、ご家庭においても「暗くなる前に家に帰ってくる」などのご指導をお願いいたします。

さて、10月18日から2泊3日で5年生が長野県野辺山方面で宿泊学習を行いました。5年生の子供達は、八ヶ岳の自然に触れながら有意義な3日間を過ごすことができました。子供達は今回の経験を来年の修学旅行に生かしてくれると期待しています。

さて、11月の生活目標は「友だちに思いやりをもとう」です。東京大学名誉教授であり解剖学者でもある養老孟司さんの言葉に「教養とは他人の心が分かることである」というものがあります。この言葉の意味はどういうことなのでしょう。実は、脳科学者の茂木健一郎さんが自著『感動する脳』の中で、この言葉の意味を次のように説明しています。

悲しい状況にいる友人が笑顔でいるのを見て、その理由を自身の経験や友人の性格等を考慮して「きっと我慢しているのだろう」と相手の気持ちを推し量れるのは言語を持っている人間だけです。こういう思考形態は、言語というものがなくては決して出来ないのです。

そして、このような相手の気持ちを推し量るといふ抽象的・論理的思考能力は、いわゆる学問と比例しているのです。学問というものは、基本的には論理的思考なくしてはできません。人間にしか出来ない他人の気持ちを思いやるという能力は、実は一般的な意味での学問と深く関係するといふ、意外な結論に至ってしまうのです。

一般的な見方としては、勉強のできる子は、どちらかと言えば自分勝手に冷たい子というイメージがあります。だから親や先生などは、少くも勉強ができなくても、他人を思いやれる優しい人間になりなさいといふ。でも実は、思いやりのある人間を育てるためには、学力を身につけさせなければならない。それが脳科学の分野から見た結論なのです。

ただし誤解のないように言っておきますが、あくまでも学力＝成績というわけではなく、成績がよくなくても、論理的思考にたけた子もいることから、一概には決め付けることはもちろん出来ません。しかし優しさや思いやりの心を育てるためには、学力というものが必要であることだけは確かです。

したがって不思議な話なのですが、相手に優しくする、相手の気持ちを思いやることができる、そして人と人との間で感動が生まれるためには、実は広い意味での教養が必要になってくるわけです。  
茂木健一郎著『感動する脳』より 要約

本校では、「自分の思いや考えを生き生きと表現する児童の育成」をテーマに学校課題研究を行っております。子供達が自分の思いや考えを生き生きと発表するためには、しっかりとした根拠をもって発表することが大切です。思いや考えの根拠とは、茂木氏の説明から導き出すと基礎的・基本的な学力と言えます。基礎的・基本的な学力とはテストに出てくる内容だけではなく、子供達が授業や学校生活の中で身につけた知識や経験も含まれると思います。自分の思いや考えをしっかりと表現することができる子供は、きっと相手の思いや考えを理解することができる子供に違いありません。養老氏や茂木氏が述べられている通り、相手を思いやる心と基礎的・基本的な学力（教養）は一定の相関関係があると思います。

本校の学校教育目標の一つは「思いやりのある子」です。この学校教育目標を達成するために子供たちの学力向上に努めるとともに道徳教育で心の成長も図り、「思いやりのある子」がいる素敵な宗岡小学校を実現したいと思います。